

学校評価について

学校評価とは

学校評価とは、川内市医師会立看護専門学校が、学校活動全般について自己改革を行うとともに、学生を専門職業人として育成できる教育に向き合い、学校の設置目的を達成するために行う評価のことです。

学校評価は教育機関としての機能を包括的に判定する学校関係者評価と、教員による教育方法と内容の評価である教員自己評価からなっています。それぞれの評価は下記通りです。

平成 30 年度の取り組みと評価

<学校関係者評価委員会>

平成 31 年 3 月 18 日（月）に第 4 回学校関係者評価委員会を実施しました。

評価者：委員 6 名 参加者：学校長以下職員 5 名

以下課題に関する評価コメント（一部抜粋）

「Ⅰ教育理念・目的・人材育成像」及び「Ⅱ学校運営」に係る課題

課題 1) 「課程変更（平成 31 年度、高等課程准看護科・定時制 2 年課程から全日制 3 年課程へ変更）の準備を進める中で、地域住民や中学、高校などへの広報を強化し、地域に貢献する学校としての知名度を高める。」について

- ・オープンキャンパスや広報活動を行っているが、本年度は、教育課程変更のため、募集や試験日程が遅くなり周知が十分ではなかったように思える。少子化ですが、看護職のニーズは高いので、今後実績を残し、広報活動を続けることで、地元の学生が集まることを期待する。
- ・三年課程開校に向け、募集人数より少ないが、認可がおりのたのが 1 1 月と遅かった事が要因と考える。オープンキャンパス開催時にも 70 名と多くの参加者があり、広報活動など積極的にされていた。

「Ⅲ教育活動」に係る課題

課題 2) 「新課程開設に向けて、外部講師との連携を深める」について

課題 3) 「資格試験・国家試験に向けた対策・指導等時間内におこなう。」について

- ・運営方針に沿った事業計画が策定され、定期的な学校運営会議などで教育活動を確認・検討しながら、適切に運営されている。
- ・教育理念の共通認識を目的に、全日制 3 年課程開校に向けて、3 年間に関わる講師と実習指導者を対象に講師会議を予定している。（約 90 名参加予定）
- ・現段階で資格取得に関する指導体制のカリキュラム内の位置づけはないが、新体制においてはカリキュラム内に組み込む予定である。今後を期待したい。

「Ⅳ学習成果」に係る課題

課題 5 「学修成果・学生支援としての卒業生へのフォローのありかたを検討する。」について

- ・資格試験に不合格した者の受験体制づくりなどは支援しているが、他卒業生には特別なフォロー体制づくりはできなかった。
- ・卒後者の把握をされていない。実習病院等で連絡が取れる卒後等から把握すると良いのではないかと今後改善が必要である。

「Ⅸ社会貢献・地域貢献」に係る課題

- ・就労されている学生が、大半である中、社会貢献やボランティア活動にも取り組まれている。可能な範囲でボランティアに対する意識づけが行われている。学校も施設として開放され会議等での使用をされている。
- ・地域貢献として、専任教員養成講習会の支援や鹿児島県看護協会の研修講師など、依頼は積極的に引き受けている。

学校関係者評価委員会、大項目評価の平均値(平成31年3月18日)

評 価 項 目 (* 評価大項目及び付随する小項目内容そ項目数)	H27年 度	H28年 度	H29年 度	H30年 度
	平均評 点	平均評 点	平均評 点	平均点
I、教育理念・教育目的・人材育成像 * 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか等 5項目	5.0	4.5	4.8	4.8
II、学 校 運 営 * 目的等に沿った運営方針が策定されているか等 8項目	5.0	4.8	4.9	5.0
III 教 育 活 動 * 目標の設定、教育方法と評価、資格試験・国家試験教職員について等 14項目	4.6	3.8	4.2	4.6
IV 学 修 成 果 * 資格取得率の向上が図られてるか、卒業後のキャリア形成への効果を把握し 教育活動改善に活用しているか等 5項目	2.6	2.5	2.3	2.4
V 学 生 支 援 * 進路・就職に関する支援体制は整備されているか等 8項目	4.2	4.4	4.1	4.2
VI 教 育 環 境 * 施設・設備は、教育上の必要性に対応できるよう整備されているか等 3項目	5.0	5.0	4.7	5.0
VII 学 生 募 集 * 学生募集活動は、適正に行われているか等 4項目	5.0	4.9	4.8	4.8
VIII 法 令 等 の 遵 守 * 法令、専修学校設備基準等の遵守と適正 な運営等 4項目	4.2	4.8	4.8	4.7
IX 社会貢献 地域貢献 * 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献・ボランティア活動をしているか 3項目	3.6	5.0	4.7	5.0
総項目平均評価点	4.4	4.4	4.4	4.5

教員自己評価 (平成31年1月末実施)

<教員自己評価>

各評価内容別平均値での比較		H26	H27	H28	H29	H30
I、教育課程 教授活動	1. 授 業	2.7	3.4	3.4	3.4	3.4
	2. 実 習	2.9	3.4	3.4	3.3	3.3
	3. 学 級 運 営・指 導	3.2	3.6	3.5	3.4	3.3
	4. 資 格 試 験	3.0	3.3	3.3	3.3	3.2
	5. 行 事 ・ 他	3.5	3.8	3.7	3.4	3.4
II、研究・研修	6. 研究 ・ 研修	2.3	3.2	3.3	3.2	3.4
III、組織運営 広報活動	7. 組 織 運 営	3.3	3.7	3.7	3.4	3.6
	8. 学 生 募 集	2.5	3.1	3.2	3.4	3.1
	9. 施 設 設 備	2.8	3.5	3.6	3.5	3.6
総 合 平 均 点		2.9	3.5	3.5	3.4	3.4

平成31年1月実施

教員自己評価では、「Ⅰ,教育課程・教授活動」が 21 項目、「Ⅱ,研究・研鑽」が 3 項目、「Ⅲ,組織運営・広報」が 11 項目、3 分野 35 項目について 5 段階評価を行い、自己の取り組みの改善を図っています。

平成 30 年度教員自己評価結果（一部抜粋）

- ・大項目においては最も低かったのは高等課程のオープンスクール等の 2.7 であった。他は全て 3.0 以上であった。最も高かったのは、専門課程の施設整備の 3.9 であった。
- ・両課程共に長期研修で教員数が少ない中、各教員が協力し合い、学校運営・学生指導に取り組んでいた。さらに資格試験・国家試験への個別の指導など計画的に行った。
- ・授業評価については、専門課程は「授業形態（講義・演習・実技）は内容に応じて選択した」が最も高く 3.8 であった。高等課程は「授業に対する学生の反応や理解度をなんらかの方法で評価した」が最も高く 3.4 であった。両課程共に全ての項目で 3.0 以上であった。授業は各教員が創意工夫し、各教員間で協力体制がとれていた。
- ・研究・研修への取り組みは両課程共に 3.0 以上であった。日本看護学校協議会主催の研修が始めて、鹿児島で開催されほぼ全員の教員が参加した。全国規模の学会に参加することで、刺激を受け、看護基礎教育の展望を考える機会となった。
- ・平成 30 年度は、長期研修の教員が 3 名おり、各教員に無理を強いてしまった。しかし、各教員は協力し合い、学生への支援を効果的に行っていた。
- ・大きな目標でもあった学生確保については目標に達していない。
- ・平成 31 年度は初めての看護を学ぶ学生を迎える。今まで取り組んできたことを見直し、入学した学生が生き生きと学び続けられる環境を作らなければならない。